

## 第19回環境教育・環境学習ネットワーク会議 会議要旨

日時：平成28年2月16日（火） 15:00～17:00

場所：横須賀市消防局庁舎第3会議室

出席委員：高橋弘二座長、高橋正明構成員、奈良谷構成員、野崎構成員、  
米田構成員、桐谷構成員、稲構成員、橘構成員、吉田健人構成員、  
吉田松子構成員、森構成員、高橋直人構成員、内船構成員、（計13名）

事務局：環境政策部環境企画課（小澤課長、笠原主査、大場、山中）

傍聴：1名

### ◆ 会議の流れ

#### 1 開会

#### 2 報告

（1）横須賀市環境教育・環境学習マスタープランの見直しについて

（2）第5回横須賀E C O大賞の表彰団体について

（3）「よこすか環境フォーラム2016」の実施結果について

#### 3 議題

（1）環境教育・環境学習の今後の取り組みについて

#### 4 その他

（1）事務連絡

### ◆ 報告1 横須賀市環境教育・環境学習マスタープランの見直しについて

[要旨]

パブリック・コメント手続の結果について、募集を行った結果、意見等の提出はなかった。今後は、見直しプラン（案）を作成し、4月上旬に公表する予定。

### 高橋座長

今の報告に対してご意見、ご質問がありましたらお願いします。

特にないようでしたら、続いて報告2を事務局からお願いします。

### ◆ 報告2 第5回横須賀E C O大賞の表彰団体について

[要旨]

表彰団体が決定し、よこすか環境フォーラム2016内で表彰式を行った。表彰団体は4団体であり、団体の活動内容と評価について説明した。

### 高橋座長

ご質問がありましたらお願いします。

### 高橋正明構成員

表彰団体の中で特に感動したのは、学校・園部門賞の「武山小学校みどりのくにプロジェクト」です。保護者の方が中心となるということで、任意の団体がそのような活動をしているのは素晴らしいと感じた。表彰後、活動を継続していくようなしかけがあるともっと良いと思う。また、見学会の開催などは可能か。

### 小澤課長（事務局）

学校に依頼すれば可能かと思う。ご希望がありましたら言って欲しい。

### 高橋正明構成員

このような活動を応援することに繋がると思う。NPOとかではなく、保護者の方が自主的にやっているというのは素晴らしい活動なので、ぜひ継続してほしいと思う。

### 小澤課長（事務局）

校長先生が3月で退職されますが、事務局でPTAの方がいらっしゃるので、またその方が継続していただけると聞いている。何年前かに一度、間が空いてしまったことがあるが、今回は継続していただけると思う。

### 高橋座長

私からですが、保育園からの応募はありませんでしたか。

### 笠原主査（事務局）

今回、保育園からの応募はありませんでした。

### 高橋座長

橘先生のところは応募しましたか。

### 橘構成員

応募しておりません。行事が色々重なってしまいました。

### 高橋座長

パネルは出されておりましたね。あれだけでも十分です。

## 橋構成員

武山小学校は学校の裏山が活動の場です。学校の中にあるので活動が行いやすく、継続しやすいと思う。

## 高橋座長

鶴久保小学校の稲先生はいかがですか。

## 稲構成員

原則、難しい。学校は年単位で動いているので、武山小学校のように保護者が絡んでくると、ある程度継続した取り組みができるのかと思う。校長先生などがしっかり動かないとなかなか実現しないのかと思う。

鶴久保小学校は、山に隣接しているなどの環境ではないのですが、市内の中では植物の数が多学校であると聞いています。武山のように山というかたちではないので、本校で総合的な学習等で環境に取り組んでいる学年が少ないのが実態です。これからやっていきたいと考えていますが、鶴久保小学校の状況は環境に対して厳しい部分もある。また保護者の理解も含めながら考えてやっていきたいと思う。協力が得られれば進めていきたい。考えていることはあるのですが、なかなか難しい。

## 吉田健人構成員

私の学校でも総合的な学習の時間は3年生から6年生までありますが、そのうち環境を扱うのはその中の1つの学年です。ビオトープであったり、近くの川であったり、そのようなところを中心とした学習をしたとしても、その子たちが次の学年に上がるとまた違うことを行う。その川で行ったことを下の学年が続いてくれるかという点、そうではない。やはり興味関心が違うところに向いてしまうことがあるので、プツッと切れてしまうことが大きい。先程、橋先生の話にもありましたが、その子たち以外の外部の力、保護者などの協力がないと継続した取り組みは難しいと感じている。学年というよりは学校や地域を巻き込んだ活動をこちら側も考えて取り組んでいかなければいけないと感じました。

## 高橋座長

ありがとうございました。

それでは報告3をお願いします。

## ◆報告3 「よこすか環境フォーラム2016」の実施結果について

〔要旨〕

平成28年1月23日（土）に「よこすか環境フォーラム2016」をヨコスカ・ベイサイド・ポケットで開催した。午前の部では、横須賀ECO大賞、夏休みエコチャレンジ、環境ポ

スターコンクールの表彰式が行われた。午後の部では、市内小学校等の活動発表や、J A M S T E C の初代パイロットである田代省三氏による講演を行い、会場から活発な質疑があった。来場者数は340名。

#### 高橋座長

ありがとうございました。

参加された方の感想をお願いします。

#### 高橋直人構成員

午前中の最後のあたりを拝見し、学校のお子さんと保護者の方が圧倒的に多かったという感じがしました。午前から午後にかけて、続けて参加していただくことは、改めて難しいと感じました。会場に掲示した皆さんが研究された成果を生涯学習センターでも掲示しています。1月末には「まなびかんまつり」という千人規模の来館者、今年は3,300人ほどが来館したイベントがありましたが、そこで掲示物の感想をいただきましたので、それをご紹介します。

- ・流木やごみなどの処理について、地域のNPOの活動状況がよく分かった。
- ・学校で長期にわたる水の調査など、地球に役立つ活動に感心した。

このような感想がありました。

#### 高橋座長

ありがとうございました。その他ありますか。

#### 米田構成員

私は午前中に伺いました。子どもさんがとてもいい顔をしていたので、とても良い活動だと思いました。展示されている場所に動画があると、もっと興味が沸いてくるのではないかと感じた。

#### 野崎構成員

表彰された4部門を見ると、横須賀港湾防災支援会や追浜中学校科学部の水質調査など生活環境に関係したものであると思うが、この4団体はどちらかというと、自然環境系に重心がいつているのではないかと感じた。エコチャレンジの5校の表彰ですが、表彰状をいただくだけでなく、具体的にどのようなチャレンジをしたのかが伝わってくると良かったと思う。そのメッセージがいただける機会があれば良かったのではないと思う。

#### 小澤課長（事務局）

エコチャレンジは学校全体で実践をして、前年と比較してどれだけ電氣量が削減できた

かをポイント化し、また、夏休みに家庭で色々な取り組みをした内容にポイントを付けて満点を取った方を集計し、電気量と取り組みのポイントを合わせた合計で評価するものです。チャレンジは決まったものを行うとともに、それ以外にあれば行っていただければいいかと思う。

#### **高橋座長**

JAMSTECの発表に対しての質問は、大人からではなく、子どもからが多かった。熱心な子どもがいてすごい質問をしていた。また開催のチラシですが、具体的に表彰団体が載ったチラシが配られたのが遅かった。

#### **笠原主査（事務局）**

チラシを配付したのは、「広報よこすか」との関係もあり1月になってから配付した。団体が決定するタイミングもあり12月にギリギリに納品され、周知は1月に行いました。

#### **高橋座長**

発表団体の名前が載ったものをもっと早く配付した方がいいと思う。特に表彰される団体などは、自分たちの名前が載ったものが配付され、たくさんの人に見られているというのは表彰団体にしても有難いこと。できればもっと早く配付されるといいと思いますが、野崎さんいかがですか。

#### **野崎構成員**

お知らせとしてはいただいていたのですが、色々な方に配付できる状態のものを手にしたのは遅かったです。遅いという感じは確かにしました。

#### **高橋座長**

事務局いかがですか。

#### **小澤課長（事務局）**

ECO大賞の発表は「広報よこすか」の1月号に掲載するのでそれ以前は難しいが、それを早めて12月くらいにECO大賞だけでも発表できれば周知できるので、日程に関してはまた検討します。

#### **高橋座長**

よろしくをお願いします。

## ◆議題1 環境教育・環境学習の今後の取り組みについて

### 【事務局からの説明】

環境教育・環境学習の推進を図るための今後の取り組みについて、自由に意見交換をする。環境教育・環境学習ネットワーク会議に関わる主な事業は、横須賀ECO通信や、人材育成講座。

### 高橋座長

今の説明に対し、質問や確認事項がありましたらお願いします。それでは、ご意見がありましたらお願いします。

### 橋構成員

学校の立場からですが、環境教育指導者等派遣事業のリストを以前から配っていただき、ある年から事例集をつけていただくことになったが、非常に有難い。参考3の資料を見ると、平成24年度は受講人数が多く、それ以降は落ち着いているようだが、事例集を作ったことと平成24年度の関係はありますか。なぜ平成24年度は多いのか。せつくなのでもっと増えていくといいと思います。

### 事務局（笠原主査）

この分析は非常に難しい。この前年、平成23年度が非常に少なくなっている。平成24年度に初めて事例集を出した効果もあるかと思うが、平成23年に起こった東日本大震災の影響もあり、学校では課外授業を控えめにし、その結果、翌年が増えたのではないかと予想される。平成25年度から27年度がほぼ同数で、突出している平成24年度と平成23年度の平均値が同程度になる見方もある。こちらの取り組みとして変わったのは、平成24年度に事例集を作成し、それ以降、毎年、前年度の事例集を継続して学校に配布している点が学校へのPR方法として変わったが、それ以外のPR方法は4月の校長先生が集まる場所で、情報提供しているのは変わっていない。この2つの要因が平成23年度から平成25年度の変動の理由かと思う。

### 橋構成員

確かに、東日本大震災の年は校外学習を控えました。事例集はこのまま続けていただくと良いと思う。

冊子「よこすかのかんきょう」は以前、4年生または5年生の児童数分を配付していたが、それを希望する学校に変えた経緯があったと思うが、実際どれくらいの学校が希望し、配付している数はどのくらいなのか。

### 笠原主査（事務局）

手元に資料はないが、冊子の内容は元々小学校5年生を対象にしたもので、4,000冊を学校に配っていた。その効果の見直しで、一度部数を圧縮し、学校から希望があれば増刷するとのことで、部数を減らし2,000冊作成し、学校に見本を送り、授業で必要な部数を配付するかたちが現状です。実際、学校数ですと6、7校。部数は1,000冊くらい配付している。昨年は多く、1,600冊配付しています。内容のデータ部分はすぐにも変わることでもないので、前回から2年に一回、4,000冊作成することとし、2年間で4,000冊配付したい。学校に行く際や、環境教育指導者等派遣事業で指導者の方が学校で授業をする際の教材として使っていただきPRしている。先生が冊子をご存知の場合は、学年内にも声を掛けていただき送っている。

### 橋構成員

配付の数が減っているのはショックです。皆さん欲しがるのかと思っていた。皆さんが欲しがる内容になっているのに、知らないからなのか、または内容が使いにくいものなのか。私は欲しいので今年もお願いしている。

### 高橋座長

ありがとうございます。その他、ありますか。

学校と教育委員会にお聞きしたいのですが、ゆとり教育の反動で総合的な学習の時間が削られてきているのではと言われていたのですが、いかがですか。

### 稲構成員

時間数に関しては導入した時よりは減りましたが、現状は維持されていると思う。総合的な学習の時間については、ここに来ている3人は研究会に入っていて、総合的な学習については学んでいますが、自分たちの職場にいる先生方が、総合的な学習の時間についてまだまだ上手に出来ていない現状がある。環境教育を取り入れて総合的な学習をすることもそうですが、それと共に総合的な学習が子どもたちにしっかり教育できているかとの課題もあります。研究会としてはその部分も先生方に広めたいと活動している。環境教育とセットにして広めていかなければと思っています。

### 高橋座長

総合学習イコール環境教育ではないですね。総合学習の中で環境を取り上げるのはどのくらいか。

### 吉田健人構成員

学校によって違うと思うが、多くの学校で、3から6学年のうちの2学年くらいかと思

う。富士見小学校は昨年3年生で環境を勉強したが、今年の3年生は環境とは違うことをやっていたり、3年生が4年生になり、また続けたいということであれば、行ったりすることもあるので、一概に何年生が行うというのは、おおまかには決まっているが絶対的ではないので、4学年のうち1学年がやれればと思っている。また、先程、稲先生からお話がありましたが、総合的な学習は地域がとても大切なので環境教育をやるにあたり、「地域にはこんな自然がある」、「こういうものがある」と把握する必要がある、教員の間でも話が出るが、教員が地域の中にどんなものがあるかを知る機会がなかなか持てないのが現状です。日々の業務の中で、その時間が取れない。先程、稲先生がお話した課題がこれからどうこちら側で解決して子どもたちにより良く伝えていかれるかが大事だと思っています。

### 高橋座長

ありがとうございました。

### 高橋直人構成員

教育研究所の先生から、今、横須賀で学校の先生になられる方は、県外から採用される方が多く、横須賀のことを知らない方も多し。ずっと横須賀に住んでくればいいが、何年かすると自分の生まれた所などに出て行ってしまい、横須賀で続けてもらえないので、何とか続けてもらいたいと伺ったことがあります。横須賀のことをよく知らない先生方が、総合学習に何から取り組んでいこうかと考えた時、地域の自然、歴史など、まず、身近な分野から、取り組まれることもあるのではないかと思います。環境保護に結び付けていくことまでは少ないのかもしれないと思いました。

### 橋構成員

総合的な学習は教科書がない。例えば環境で言うとCO<sub>2</sub>を減らすにはどうすればいいか教えなさいという内容が決まっていない。各学校が目標や、内容を含めて設定するかたちになっているので、学校により違っている。私の学校の場合5年生が環境に係る学習をするという大枠が決まっている。また、何も決めずに好きにやっている学校もあります。総合的な学習のあり方と環境教育を増やすことは話がずれてきてしまう。環境教育の内容に関してはかなり教科の中にも入ってきており社会科、家庭科、他にも国語でも教材の文中に環境の内容が含まれている。国語の中で教えるべき内容は文の読み取りや漢字だが、扱っている題材の中には環境教育に係るものが出てきていて、非常に学校では環境教育は内容的には身近なものになってきている。環境教育という教科があれば先生方も一生懸命やるかと思うが、そうではないので、環境教育だけとはなかなかいかない。今資料を見て思ったが、毎年、学校の職員対象の人材育成講座が開かれています。私は平成23年度から毎年参加しているが、教育委員会を通してひとつの研修としての位置づけがしっかりした年から、参加する人間の幅が広がっているように感じています。以前は総合的な学習研究会

とのタイアップで1つの研修会を設定していたが、小学校教諭から平成26年度からは学校教諭に変わったあたりで教育委員会との連携がとれたと思うが、そこでメンバーがたくさん増えてきていて、他県から来た人もいるかもしれないが、顔を知らない人が増えてきていると感じる。それはいいことで、繋がっていくと思う。そのような取り組みをこれからも続けていきたいと思う。

### 高橋座長

ありがとうございました。学校に話が偏りましたが、桐谷構成員いかがですか。

### 桐谷構成員

今回、学校の先生から話が聞けて良かった。

日産自動車では、「わくわくエコスクール」というものを行っており講師もしています。ほぼ日本全国でやっているが、厚木に開発拠点がある関係で、厚木、伊勢原、横浜この辺りの小学校には非常に多く行っています。今年は、300クラス位を行っていますが、横須賀は、夏島小学校、大塚台小学校の2校しか行っていません。私は2校とも行っていますが、日産自動車追浜工場があるにしては横須賀に貢献できていないという思いがあり、企業の活動と上手く繋がられないかと思っている。内容は20分位の講義で地球温暖化の問題とエネルギーの問題から話をし、その後キットカーを使い電気を作る大変さ、電気は溜めるとこんないいことがある、溜めて車を走らせるということを行う。子どもたちは理解もしてくれ、非常に盛り上がり、アンケートを見ると「すごく勉強になった。」、「将来は車を買いたい。」、「今、車を検討しているので電気自動車にしてみたい。」とのコメントが出るくらい、子どもにはインパクトのある内容だと改めて思う。社会と一緒に実際世の中で起こっていることが、学校の授業とつながるのが分かる機会になっているかと思う。そのような機会を横須賀でもっと増やしていくと小学校や企業、自然団体などそういうところが、うまく連携していくかたちにできるのではないかと思った。

### 高橋座長

日産自動車には見学に行くものかと思った。来ていただいて話を聞くというのは知っている人が少ないのではないか。

### 桐谷構成員

確かに、工場見学は来ていただきますが、そこで留まってしまふ。我々の発信が足りなかったと反省もあるが、このような機会に一步踏み出してみるのもいいかと思ひます。

### 高橋直人構成員

今のお話の内容のパンフレットやチラシはありますか。

### 高橋座長

私たちが派遣事業で行っている事例集のように、横須賀市の企業がこんなことをやりますというような事例集が配られるといい。

### 桐谷構成員

今年も300クラス位やっており、ボランティアでやっている。私も講師を行ったり、サポーターとして実験の手伝いで5、6人行っています。どこまで対応できるかは分からないが、もっと横須賀で行いたい。

### 高橋座長

日産さんがやっているというのはホームページで知るのか。

### 桐谷構成員

そこからしか見えないのかもしれない。ロコミ的なもので広まっているのかもしれない。

### 橋構成員

日産さんは、ものづくりからいくつか行ってくださっていますね。学校にリーフがきて校庭を走るなどがありました。面白そうですね。

### 奈良谷構成員

私は自動車会社なので、自動車のことを話しながら、環境のことを話しながら行うのですが、何か物を持って行ってやるのは受け入れやすい。場所を学校以外で行うのもいいかもしれないと感じました。

### 高橋座長

米田構成員、関連していかがですか。

### 米田構成員

これから教わっていく立場なので、教わりながら進めていければと思います。

### 高橋正明構成員

今の桐谷構成員の話聞いて、環境教育、環境学習の取り組みについて、例えば企業での環境教育で横須賀の企業がこんなことをやっているというのを広く紹介するようなそういう活動が一つの進め方だと思う。桐谷さんの言っていたことが広まることもあるので、例えばECO通信でもいいし、先生方がいらしている教育の一環の中でチラシを配るなど、やっていることを広く知ってもらう活動が良いと思う。厚木は大分周知されているとのこ

となので、伝えることが大事なのではないかと思う。

#### 高橋座長

事務局は何か把握しているか。

#### 小澤課長（事務局）

東京ガスは学校をまわっている。学校は教育委員会を通すのか、直接学校にあたるのか進め方が分からないことがある。情報が校長先生や教頭先生で止まってしまうこともあるのかと思う。

#### 野崎構成員

東京ガスはもう閉鎖してしまいましたが、環境学習が出来る大きな施設を持っていたり、そのような情報は私たち一般市民にも情報として入ってくる。すかさずセミナーなどでもわざわざ横浜まで出掛けたりする。市民や学校に伝わりやすいそのような情報を集めたものがあればとてもいいと思う。先日の環境フォーラムのポスターコンクールの優秀者には企業から賞が出る。環境に関して何らかの活動をしている企業は横須賀市にもかなりあるのではないかと思うので、情報がいただけるととても良いと思う。学校だけではなく小さな環境学習グループでも話が聞けるとかなどの機会があれば活用させていただきたい。

#### 奈良谷構成員

一企業として話をさせていただくと、ここにスポンサーが幾つかありますが、私が勤めている会社にもそのような話がきた場合、総務が受けてしまう。あまり環境に関係のないところであるので、出来れば各企業の環境関係の部署に話をもっていった方がよいと思う。

#### 小澤課長（事務局）

協賛企業が18社あるが、各社の環境教育に関しては特に聞いていません。機会があれば全社にアンケートを出し、どのような活動をしているかフィードバックするのもよいかと思っている。協賛企業はたくさんいただければいいのですが、表彰式を考えた時に100社とかかきってしまうと運営が大変難しくなるので、現在こちらからは伺ってはいない。たまたま口コミで「うちが行いたい。」というところにはお願いしている。現在は大々的に「お願いします」とはやっていません。現行の企業の中でやっていきたい。

#### 高橋座長

資源循環部でも出前トークなどをやっていますが、何かありますか。

### 森構成員

出前トークは年間約 40 回から 50 回、町内会などでごみの分別の話を主に行っています。また、小学校 4 年生を対象に「こどもごみ教室」というのがあり、分別の話をしている。資源循環部としては環境教育として行っています。また「リサイクルプラザアィクル」の見学も 4 年生を対象に行っています。

### 高橋座長

小学生は「アィクル」、「ごみの焼却場」「下水処理場」「浄化センター」全て行くのですか。

### 橋構成員

4 年生の社会科では見学が非常に多い。ごみ処理場、浄水場、警察署、消防署などの見学があるが、状況や立地によりバスがないと行かれないところにはなかなか行けない。ごみ焼却場に関しては教育委員会がバスを出してくれたような気がします。

### 高橋座長

足の手配が大変ですね。

### 橋構成員

はい、そこが課題です。パッカー車が来てくれるので子どもたちは大喜びです。印象の残り方が違ってきています。私たちがごみの分別について 300 回言うよりは、1 回来ていただいた方が、数倍効果があると感じます。繋がりをどうするかが課題です。情報を学校としてどう集めるか。FAX やダイレクトメールで企業からいい情報がくるのですが、教頭先生のところにきて、それを誰に配ろうかと、興味がなければそのままになってしまう。もしまとまったものを作るとなれば、興味がある人が集まっているところで配るのがより効果的かと思う。例えば夏の研修に来ている教員に配る、社会や理科の研究会で配ると興味がある人に渡ると思います。

### 高橋座長

内船先生、博物館の見学はいかがですか。学校の授業でありますか。

### 内船構成員

来ていただいている学校もあります。例えば自然関係は学芸員に館内見学の案内をして欲しいなどの依頼は少なく、どちらかと言うと自由見学をしている印象がある。人文関係ですと、考古関係の土器などを並べて見ていただいたり、おじいちゃん、おばあちゃん世代が使っていた 4、50 年前の道具といったものを並べて見ていただいたりするなど、該当

する社会科の授業で、クラス単位で見学しつつ、博物館ならではの、見て体験する授業を学芸員が担当してやっています。自然はどちらかと言うと授業用にアレンジして見ていただくのにピッタリな資料がなかなかありません。年に1、2回、たまたま教科書に出てきたということで、国語科の授業などで近くの小学校が見に来るようなかたちの見学はあります。自然系でも、授業にぴったりはまって博物館に見学に来るような工夫が、博物館の利用に繋がりそうな可能性の部分なのかと思っている。

#### 高橋座長

内船先生は、学校やフィールドに出掛けることはありますか。

#### 内船構成員

もちろんあります。例えば馬掘自然教育園に隣接している馬掘中学校の総合学習に係ることで、教育園を利用させていただき代わりに、学芸員も出かけて、植物班と動物班に分かれて1年間で2シーズンくらい継続して観察することをやったことがあります。また単発で長くやっている総合学習の1コマで先生として行く、それは私だけではなくそれぞれの分野の者、外来植物や、アライグマ、タイワンリスのことで剥製を持って授業に行くこともあります。

#### 高橋座長

天神島ではいかがです。

#### 内船構成員

天神島では主に近くの小中学校が授業で利用することは聞いています。また、関心のある学校はバスをチャーターして市外からも課外授業で来ています。

#### 高橋座長

市内の学校はあまり使っていないような気がします。

#### 内船構成員

アクセスの問題かもしれません。

#### 高橋座長

あれだけの資源がありもったいないです。

#### 内船構成員

年に何校かは毎年来ているようなので、現場職員もその日は（学校ごとに）アレンジし

て対応しているが、決して多い状況ではない。

### 高橋座長

吉田松子構成員、いかがですか。

### 吉田松子構成員

次世代の子どもたちに市の色々なことを学んでもらいたいという意見がよく出るが、それはどこの部署もやっていることを学習して欲しいと思うことで、教育の現場が先生方もお忙しく、総合学習で何を優先して学んでもらうかというのも非常にそのテーマを選ぶのが大変で、非常に選択肢はあるが、学校はできればその学校しかできないのではなく、なるべくまんべんなく広く、どの学校も均一に学ばせたいというのがあると思うので、色々市内のことを子どもたちに勉強してもらいたいが、なかなか続いていかないというのがある。今、自然環境共生課では里山の環境の再生を事業でやっている。2か所モデル地区があり、野比と長坂に沢山池の里山があります。そこで田んぼを復田し、田んぼで稲を作っています。長坂は近隣の荻野小学校がやっています。野比は近隣の野比東小学校と久里浜小学校、公郷小学校がやっています。久里浜小学校は場所が遠いのですが、熱心な先生がいらっしゃるので、山を越えて歩いて来ています。また、公郷小学校は場所が離れているが、電車とバスを乗り継いで来ています。先生が違う学校に行くともたまたまその授業が、先生が異動するとそのまま引き継いでいただけたところもあるが、違う興味の先生だと違うことを子どもたちが学べるということがあるので、なかなか難しいところでもある。

### 高橋座長

久里浜小学校から頼まれ断ったことがありました。よくやったと思います。

その他ございますか。

### 高橋直人構成員

私は、学校教育ではなく、社会教育に携わっているので、そちらからの話ですが、生涯学習センターでは、「Yokosuka まなび情報」という講師の方や地域で活動しているグループの情報を提供しています。学校の関係だと、PTAから「自分たちが活動する時に講師を招きたい」とか「呼んで話を聞きたい」などの問い合わせがあります。また、登録者していただいた方々の中で、特に自分たちが学んだことを学校や地域の活動に活かしていきたいという方々のリスト、「地域活動参加可能者リスト」を作っています。昨年の年度末に学校にもお配りしましたが、先生方はご覧になっていらっしゃるでしょうか。先生方一人おひとりのお手元にまでは届いていないと思うのですが。先生方にもそのような情報が伝わり、総合的な学習だけではなく、色々な活動に地域の方を講師等に招く際の参考に使っていただければと思っています。

生涯学習センター、市民活動サポートセンター、生涯学習センター、ボランティアセンターの4施設は、月に一度、館長等が集まり情報交換を行っています。学習相談員もおり、たとえば、学習相談の中で、市民活動サポートセンターに登録している地域活動グループを紹介した方が適切だと思えば、そちらを紹介しています。

今日は、このような地域の情報があることをもっと先生方にも宣伝していかなければいけないことがよくわかりました。また、こちらにいらっしゃる環境活動の団体の方々にもぜひひまなび情報に登録していただきたいと思います。

### 高橋座長

その他、ありますか。

### 高橋正明構成員

私が感じているのは、環境教育が広まるかどうかというのは、特に深い意識でやろうという先生が増えるとその学校や学年が環境の教育に取り組む。そのような先生を幅広く育てるために人材育成講座を幅広く進めて、そのような先生を一人でも多く増やし1校でも一人でも多く環境教育を受けるという循環を作っていく意識でこのネットワーク会議を進めるのはいいと思います。もう一つは講座内容を見ると、どちらかと言うと自然環境や里山が多いようだが、一方、最近気候がどんどん激しくなりとんでもないことが起こりそうとのことで、温暖化対策、エネルギー対策にも目を向けた項目を入れるといいと思う。

### 高橋座長

それでは、議題についてはこれで終わります。

事務局からお願いします。

### 笠原主査（事務局）

平成27年度のネットワーク会議は今日が最後になりますので小澤課長より挨拶がございます。

### 小澤課長（事務局）

お忙しい中、ありがとうございました。議題が「環境教育・環境学習の今後の取り組みについて」という漠然としたテーマにもかかわらず、様々なご意見をいただきありがとうございました。このネットワーク会議は、交流を図っていただき、よりよく環境教育を進めていくということですので、皆さんから率直なご意見をいただき、今後に繋げていきたい。最後に、1年間こちらの会議にご協力いただきましてありがとうございました。昨年8月から第4期構成員としてまた来年度も引き続きよろしくお願い致します。また今年度、相互交流を生かした人材育成講座については、8月にしょうぶ園で学校の先生向けに環境

学習講座を開催しました。生物多様性と外来生物とフィールドワーク、こちらは天白さんに講師をお願いしました。しょうぶ園や周りの里山を体験していただきました。教育委員会にもご協力いただき、たくさん参加していただき大変有意義な講座となりました。また9月には自然・人文博物館の内船先生や学芸員の先生にお越し、講義と標本の見学を行いました。また10月には東京ガスさんにご協力いただき川崎の扇島工場に施設見学に行きました。お陰さまで無事に終わりましたこと、お礼申し上げます。また昨年度から年明けまで、環境教育・環境学習マスタープランの見直しを行いました。これにつきましては、概ね出来上がり、多くの方に色々な場面このマスタープランを活用していただきたい。来年度も色々なご意見をいただきたいと思っています。来年度も引き続きご意見をいただきたいと思います。1年間ありがとうございました。

#### **高橋座長**

これで本日の会議を終わります。ありがとうございました。